
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

徳倉小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.07.07 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.11.11 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.05.30 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.10.05 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.05.23 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

◆：H25.10.24 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

□：H26.05.27 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「高齢者」

■：H26.10.10 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
テーマ「①組長レベルで要援護者を把握できる防災組織を整えたい&高齢者同士のコミュニケーションを高め見守りの協力体制につなげよう」（P6 掲載）
「②あいさつが普通かつ安全に行える地域にするための具体的な方法を考えよう」（P7-8 掲載）

◎：市の意見・回答
⇒：課題解決に向けた取り組み事例

（※担い手略称 自：自治町内会、民：民生委員、子：子ども会、ス：スクールガード、老：老人会）

	課題	担い手
防災訓練	<p>①住民・子どもの参加促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●若者や無関心な住民を参加させていく方法が課題。 ◆繰り返し防災の問題を提案し、より具体的にしていきたい。 ⇒◆町内で防災アンケート実施。（徳倉第1） □幸原町自治会では、今年の訓練に各組最低3名参加するよう、声かけをする予定。総会や委員会などでも話し、多数の参加を募りたい。 □訓練で「黄色いハンカチ」を掲示することは、訓練に参加していることと同じ。参加率50%はすごい。そのうち、実際に訓練に参加するきっかけになれば。 ◆9月の訓練は暑くて熱中症の危険がある。10～12月にしてほしい。 □アパートが多い地区で訓練参加率が悪かった。訓練は9月という意識があり、12月開催を把握していなかった。呼びかけ方を一工夫する必要がある。 ●子どもの参加には、子ども会と無理のない範囲で協力が必要。 ●小学生を授業の一環として訓練に参加させてはどうか。 ●小学生が訓練に参加し、三角巾を住民に教えるような活動や役割があれば、活性化・マンネリ化対策になる。 □高学年は自分から動けるので、子ども会や学校から訓練参加の呼びかけがあるといい。 □親が訓練に参加する意識付けも大事。親が関心を持ち、「日ごろから備えないと災害時困る」と、親身に子どもに伝えられれば少し違うのではないか。 	<p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自・子</p> <p>小</p> <p>小・子</p>
	<p>②要援護者の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要援護者は訪問しても顔を見せないことが多い。顔見知りの組長や、民生委員も同行すると良い。 ●徳倉のようにリヤカーを購入し利用したい。 ●日頃から要援護者を見守る見回り隊を構築したい。（徳倉第2） ●まず要援護者を家から救助する方法を考え、実際に訓練を行ってほしい。（家族や近隣住民の協力が必要） 	<p>自・民</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>校区全体</p>

	課題	担い手
	<p>◆要援護者の救出救助の課題を持ち、訓練に取り組みたい。</p> <p>◆地域の中高生・大学生にも高齢者の救助体験をしてもらうような取り組みが必要ではないか。</p> <p>□要援護者を全員救助するには、「お年寄りがどこにどれだけいて、町内にこんな問題がある」と近隣に知らせることが必要。</p> <p>□全体ではなく町内一部の地域で土砂崩れや浸水が発生したならば、要援護者を救助しに行くことは可能だと思う。その場合、誰がどこから救助に行くのか考える必要がある。</p> <p>□きちんとした組織体制を作るには、コミュニケーションをとり、「向こう三軒両隣」を作り上げていかなければいけないと思う。</p> <p>□町内で困っている方の状況を、組長レベルまで把握できる組織体制が必要。それには日ごろの付き合いが大切になってくる。</p> <p>→【■①テーマ別会議(P6)に発展】</p>	<p>自</p> <p>自・高・大</p>
	<p>③防災体制の強化</p> <p>●徳倉小付近は湿地帯だったため、液状化対策が必要。</p> <p>●断水に備え、井戸など水が出る場所をハザードマップにまとめては。</p> <p>●過去の大震災で必要となった物資を調べ、日頃から準備するべき。</p> <p>●組長も取り組み方に温度差がある。机上論ではなく、実際に起こっている問題の解決策を考えたい。</p> <p>●マンション単位、組単位の小さい組織活動が重要。</p> <p>●市は小集落も配慮した配給システムをつくってほしい。</p> <p>●訓練は地域のきずなづくり。必ず参加するものになりたい。</p> <p>□町内班作りは難しかった。市の考え方と町内会の実力にギャップがあるように思える。そのギャップを埋めていき、体制を作る必要がある。</p> <p>◎県の「ふじのくに防災士養成講座」に参加する場合、補助金が出る。また、市ではもう少し簡単な人材養成講座を実施している。ぜひ町内で参加を呼びかけてほしい。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>市</p> <p>自・市</p>
子どもの健全育成	<p>①挨拶の促進</p> <p>⇒◇◆スクールガードは毎日の挨拶で子ども達と信頼関係がある。</p> <p>◇スクールガード講習会や、情報交換の場を設けてほしい。</p> <p>◇保護者、子どもと顔見知りになることが重要。(顔や名前を覚える、挨拶プラスおしゃべりで挨拶しやすくなる)</p> <p>◇地域に挨拶の積み重ねがあり、中高生も挨拶してくれる。今後も声かけをお願いしたい。(徳倉小)</p> <p>◆挨拶は学校の指導だけではなく家庭での教育が大切。自然に挨拶できることが目標。</p> <p>◎校区全体で、挨拶する地区になるといい。</p> <p>→【■②テーマ別会議(P7-8)に発展】</p>	<p>ス</p> <p>市・ス</p> <p>校区全体</p> <p>PTA</p> <p>校区全体</p>

	課題	担い手
	<p>●◆昔は隣組の会合や、交流会等があった。会合の復活など、顔を合わせる機会を隣組から作っていききたい。</p> <p>□各町内で日常的にお互いに声をかけあうといい。子どもの健全育成につながると思う。</p> <p>□なるべく外へ出て清掃活動などから始めれば、それが声かけの機会になる。</p>	自
②不審者対策	<p>○防犯パトロールを子どもがいる時間帯に変更するよう検討したい。</p> <p>⇒◆フェアキャストを使って、地域で不審者情報を共有。</p> <p>◆不審者情報が多いため、子どもへみんなに挨拶するよう教えるのは難しいが、地域の方とのふれあいや学びは大事にしたい。</p> <p>◆防犯パトロール、町内会長など、外見で役柄がわかることが大切。ユニフォームや格好をまず認知してもらおう。</p> <p>◆年一回、役員の役割がわかるものを顔写真付きで作成し、配布してはどうか。</p> <p>◆バッジを活用したい。登録した人にバッジを配布し、バッジをつけた人には子どもから率先して挨拶をするよう、学校・保護者から指導していきたい。(徳倉小PTA)</p> <p>⇒◆スクールガードも最初はベスト、帽子で認識された。</p>	小・ス 校区全体 自 自 PTA
③3世代交流	<p>⇒◇夏休みに老人会と子ども会の交流行事がある。</p> <p>⇒◇自治会で子どもと高齢者のふれあい実施(敬老会など)。</p> <p>⇒◆幼稚園では老人会と交流や祖父母参観等を実施。</p> <p>◆徳倉小祭りを土日に地域の交流行事として開催してはどうか。</p> <p>○4校区で三島夏祭りに匹敵する大きなイベントを開催してみたい。</p> <p>◇◆運動会などを通じ、子どもと高齢者の交流の場をつくりたい。</p> <p>⇒◇◆運動会で子どもと高齢者の交流、スポーツ少年団と消防団の交流競技を企画実施。(体育振興会)</p> <p>◆以前は保健委員と体育振興会で「みしま体操」を実施していた。色々なところに顔を出して保健委員の活動を広めていきたい。</p> <p>□小学校を、コミュニケーションを図る一つの場としてぜひ使ってほしい。子どもは地域、社会の宝なので、学校を一つのきっかけとしてくれたらいい。</p>	子・老 自 幼・老 小 体育振興会 保健委員 小
④遊び場・通学路	<p>◇外で遊べるよう公園・広場を整備してほしい。</p> <p>○通学時の車対策を考えなければならない。</p> <p>◇通学路の安全のため、道路の拡幅や通行帯設置を検討してほしい。</p> <p>◇定期的に通学路の点検(枝や穴などがある)をしてほしい。</p>	自・市

	課題	担い手
高齢者	<p>①高齢者の見守り</p> <p>⇒◇4か月に1度研修会で情報共有を図っている。(民生委員)</p> <p>⇒◇組単位で日頃から高齢者の見守りを実施。(ゴミ出しなど)</p> <p>◇◆高齢者へ笛・祝い金を配布する時、最初は必ず民生委員と回ってほしい。 見守りの協力体制が必要。(民生委員)</p> <p>◆孤独死が増加。日常的な見守りがこれからの課題。</p> <p>◆町内会で積極的にお年寄りを表に出す工夫をしてほしい。</p> <p>◆高齢者は訪問してもセールスだと思い出て来ない。訪問者が誰かわかる方法があると一番いい。(民生委員)</p> <p>◆朝に旗を出し夜しまうなど、高齢者から元気だと隣近所に知らせる仕組みがあるといい。(民生委員)</p> <p>□要援護者リストを活用し、要援護者がいたら各組長から隣2軒にお願いをして、日ごろから支援してもらうのが一番いいのではないかな。</p> <p>□個人情報なのでだめかもしれないが、そこに高齢者がいるとすぐわかるよう、高齢者の家庭にマークをするといいのではないかな。</p> <p>□今年の敬老金配布は、組長や民生委員と一緒に回れるといいと思う。</p> <p>□企業には、単身高齢労働者の登録を義務付ける体制をつくってほしい。</p>	<p>民</p> <p>自</p> <p>自・民</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自・民</p>
	<p>②高齢者の交流</p> <p>●◇地域の仲間が集まれば情報も集まる。老人会をもっと利用してもらいたい。 老人会に入っていない人が心配。</p> <p>◇老人会がモノづくりを子どもに教えるような交流があれば、老人も元気になり、子どもも優しくなる。</p> <p>◇老人にとって、ついの住みかとなるような街をつくりたい。</p> <p>□高齢の方も、地域のイベントに多く参加されたいと思う。</p> <p>◎若松町のコミュニティカフェ、芙蓉台の食事会などを参考に、自分たちでコミュニケーションの場を作っていってほしい。補助金も出る。</p> <p>□「高齢者同士のコミュニケーション」を増やしていくと、高齢者同士の見守りになり、地域の方々との「見守りの協力体制」につながっていくのかもしれない。</p>	<p>老</p> <p>老・子</p> <p>校区全体</p>
環境美化	<p>①環境美化</p> <p>○パトロールの中でゴミ拾いをしているが、一人一人が気を使って減らしてほしい。</p> <p>○空き家対策を考えてほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>自・市</p>

■ H26. 10. 10 テーマ別会議まとめ

テーマ①「組長レベルで要介護者を把握できる防災組織に整えたい & 高齢者同士のコミュニケーションを高め見守りの協力体制につなげよう」

(テーマ①班: 参加人数 8 人)

要介護者とは？



災害時は

- 乳幼児を持つ母親
- 障がい者(児)
- なども含まれる。

今日話すのは、

【民生委員が調査。台帳あり】

- 65 歳以上、独居者、要介護の方
- 台帳 A: 援護を必要とする人
- 台帳 B: 援護を拒否している人

高齢者同士のコミュニケーション

- ・高齢者の組づくり(4~5 人ごと)
- ・自治会と老人会とのつきあい

『組レベル』で把握 = だんだん周囲が分かるようにする！

■黄色いハンカチの活用

- ・自分も訓練に参加しているという意識付けになる。
- ・黄色いハンカチの意味を知らない人がいる。皆が意味も含めて分かるように、訓練で紹介する。
- ・徳倉校区全体で黄色いハンカチの意味を把握する。
- ・民生委員と協力し進める。

★シニアクラブで行っている標語に、「黄色いハンカチを見守ろう」も入れる。

★徳倉学区の人がたくさん集まるイベントでアピールする(区民運動会など)

■台帳(名簿)に頼らない

- ・名簿に頼らない。災害時、名簿が見られない状況が起きるかもしれない。非常に困る。



- ★家族、ご近所の日ごろのコミュニケーションが必要。
- ★隣りの家だけ気にかける。
- ★中学生、高校生の活用。(担当を決めておく)

■台帳(名簿)を公開

- ・組長が名簿を配布、周知する。
- ・要介護者名簿を組全員に広報 ⇒ 防犯(泥棒など)に対するリスクがある為、オープンにしすぎないように配布の仕方に注意が必要。
- ・組全員で認識する。
- ・援護の必要ない元気な方も名簿に載っている ⇒ 組全員で把握することで、判別ができる。

■独居高齢者の情報を持つキーパーソンを活用する

- ・地域の人だけでなく、買物場所(コンビニ等)に協力をあおぐ。

★「困った時はお互い様講座」(包括支援センター主催)に参加すると良くわかる。

テーマ②「あいさつが普通にかつ、安全に行える地域にするための具体的な方法を考えよう」

(テーマ②班:参加人数 11名)

そもそもあいさつとは？

- ・様子・体調がわかる
- ・人と人がつながるきっかけ
- ・コミュニケーションの基本
- ・顔見知りになる⇒防犯になる



あいさつの
範囲を小から大へ！

良かったあいさつ

返事がある

- ・あいさつを返してもらった時
- ・自分からあいさつをすると必ず返ってくる
- ・声をかけようと思った時に先に元気な声でおはようが戻ってきた時
- ・横断歩道で道を譲った時「ありがとうございます」とあいさつしてもらえた時
- ・「おはようございます」に「ありがとうございます」の子供の声が返ってきた時
- ・「おはようございます」の声に「ごくろうさまです」の声が返ってきた時

気持ちが明るくなる・嬉しくなる

- ・楽しい時／相手が明るい時
- ・今日一日頑張るぞと自分自身の気持ちにスイッチを入れることができた時
- ・剣道の時の気持ちの有り方(礼に始まり礼に終わる)⇒自然とあいさつが身につく
- ・今までではにかんでいた子が勇気を出して小さな声で「おはよう」が言えるようになった時
- ・幼稚園で先生や子供のあいさつが飛び交っている時
- ・小学校に行った時、こちらから何も言わなくても子供達があいさつをしてくれた時

知らない人とコミュニケーションが取れる

- ・旗振りの活動中、小学生だけでなく中学生ともあいさつを交わせた
- ・通りすがりに中学生や小学生など見知らぬ子から気持ちよくあいさつされた
- ・犬の散歩中、知らない方と子供達があいさつを自然に交わしている時
- ・知らない中学生・高校生にこんにちはとあいさつされた時
- ・自宅の前を通る名前を知らない中学生におはようございますと声をかけたら、元気良く返してくれ、次回からは自らあいさつしてくれるようになり、元気をもらえます

あいさつしにくい時・・・

- ・無視するような、あてつける様子
- ・ウォーキング中など下を向いていると声をかけづらい(微妙な空気)
- ・小学生に声をかけたいがげげんな顔をされる⇒あいさつしていいのかわからない
- ・登下校の見守り中、子どもはいいが、大人があいさつしない／マナーが悪い

・不審者対策とあいさつでは安全が優先
・地域共通のアイデアがあれば・・・

徳倉小独自のあいさつを考えよう！



ご近所・顔見知りから

- ・自分から進んで行く／まず自分からできる子に(家族で)
- ・大人同士があいさつし合う(ご近所で)
- ・まずは「できる人ができることを」の精神で、少しずつあいさつの輪を広げていく。時々できる人が情報(結果)報告。情報の発信等をする
- ・まず隣組から⇒あいさつのできる町内に

相手の名前を呼ぶ工夫

- ・少しでも相手を知っていたら、名前を呼んであいさつ「～さん、おはよう」
- ・現在、小学生の名札は裏返しなので、極力名前を覚え呼ぶようにしている
- ・名前を呼ぶとお互いに親近感が沸く

服装・バッジ等の工夫

- ・消防団の作業服／スクールガードのチョッキ等⇒着ているだけで安心する
- ・徳倉区共通のバッジや腕章などをつける。地域の方にも協力をお願いする(TOKURA Smile バッジなど)

言葉の工夫

- ・おはようのあいさつの前に「ヨッ！」と掛け声を入れる(馴れ馴れしく感じるかもしれないけれど・・・)
- ・「おはよう、ご安全に」
- ・江戸時代の人は必ず何か言葉を添えながらあいさつをしていたそうです(大人同士)
- 例:「おはようございます。元気ですか」
「おはようございます。いい天気ですね」

ジェスチャーの工夫

- ・鼻の頭をさわってからあいさつ
- ・手を振りながら声を出してあいさつ
- ・「おはよう」の言葉と一緒に手を上げる(手のひらを相手に見せる)
- ・ラッパーの様なボディランゲージ
ハイタッチで「Hey men！」
- ・英語で何かジェスチャー(握手しながらとか)付きで「Good morning」など

・小学生の子どもと朝登校時、スクールガードさんの元気の良いあいさつと子どもに対しての一言がとても元気をもらった

・スクールガードでお世話になる皆さんのあいさつだけでなく、子ども達への声かけに子ども達が楽しそうにあいさつしている

★スクールガードの活動内容

- ・現在スクールガード 28 名で活動
- ・登校時 7:20～8:00
- ・下校時低学年 14:45～、高学年 15:40～(20分ほど)
- ・下校時間は毎月プリントでお知らせが来る
- ・見守りはできる時間に行く(色々なパターンがある)

★子どもが地域であいさつできるように！

- ・10/12(日)、お祭りがある。子ども達がしっかりあいさつできるようにしたい。地域の方もあいさつを返すよう、子ども達の見守りをお願いしたい。

◎今回は時間がなく、アイデア出しまでしかできませんでしたが、ぜひ皆さんで話しあう場を持ち、このアイデアのうち何か一つでも実現することを、期待しています。

補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度 徳倉小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	幼稚園・小学校
幸原町自治会 徳倉第 1 町内会 徳倉第 2 町内会 徳倉第 3 町内会 徳倉第 4 町内会	環境美化推進委員会 民生委員児童委員協議会 保健委員会 消防団第 4 分団 いきいき友の会 北上女性学級 エコリーダー ナルク三島 地域づくりコーディネーター 交通安全母の会 地域包括支援センター	徳倉幼稚園 徳倉幼稚園 P T A 徳倉小学校 徳倉小学校 P T A
老人クラブ	スポーツ関係	子ども関係
菊寿会 幸原幸栄会	北上小学校区体育振興会 徳倉小学校区体育振興会 スポーツ推進委員会 体育指導員会	徳倉 1 丁目子ども会 徳倉 2 丁目子ども会 徳倉 4 丁目子ども会 三島市子ども会連合会 幸原町子ども会 三島キッズクラブ 徳倉キッズクラブ 末広子ども会

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.07.07 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」

「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.11.11 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」

「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.05.30 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.10.05 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.05.23 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

◆：H25.10.24 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

□：H26.05.27 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「高齢者」

■：H26.10.10 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。

テーマ「①組長レベルで要援護者を把握できる防災組織を整えたい&高齢者同士の

コミュニケーションを高め見守りの協力体制につなげよう」（P6 掲載）

「②あいさつが普通かつ安全に行える地域にするための具体的な方法を考えよう」

（P7-8 掲載）

◎：市の意見・回答

（※担い手略称 体振会：体育振興会、市子連：市子ども会連合会）

	現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練				
①住民・子どもの参加促進				
	<p>●住民の意識が高まり、AED講習など中身も充実してきている。(消防団)</p> <p>◆町内で防災アンケート実施。消火器設置場所などは、町内会とかなり認識のずれがある。(徳倉第1)</p> <p>□組によっては組長しか出てこないところもあるなど、訓練参加にばらつきがある。関心が薄い。</p> <p>□昨年、徳倉第2町内会では「黄色いハンカチ作戦」を実施。町内を3地区(1地区約10組)にわけ、「黄色いハンカチ」を含めて参加率を出した。町内全体では20数%なので高くないが、ある地区では50%ほどになった。</p> <p>◆9月の防災訓練開催は、暑くて熱中症の危険がある。(民生委員)</p>	<p>●若者や無関心な住民を参加させていく方法が課題。(徳倉第4)</p> <p>◆繰り返し防災の問題を提案し、より具体的にしていきたい。</p> <p>□幸原町自治会では、今年の訓練に各組最低3名参加するよう、声かけをする予定。総会や委員会などでも話し、多数の参加を募りたい。</p> <p>□「黄色いハンカチ」掲示は、訓練に参加していることと同じ。参加率50%はすごいこと。そのうち、実際に訓練に参加するきっかけになると思う。「黄色いハンカチ」は防災意識向上の面で効果があると思う。</p> <p>◆訓練時期を10月～12月にしてほしい。</p> <p>□アパートが多い地区で、訓練参加率が悪かった。また訓練は9月という意識があり、12月開催を把握していなかった。呼びかけ方を一工夫する必要がある。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◆町内で防災アンケート実施。</p>
	<p>●子どもを参加させるには、子ども会の協力が重要。(三島市子ども会連合会)</p> <p>□学校の取組みには参加カードなどがある。</p>	<p>●子ども会と無理のない範囲で協力していく必要がある。</p> <p>●小学生を授業の一環として訓練に参加させてほしい。</p> <p>●小学生が訓練に参加し、三角巾を住民に教えるような活動や役割があれば、活性化・マンネリ化対策になる。(消防団)</p> <p>●防災訓練を参観会とし代休を設けることができれば、全員参加が可能になる。(徳倉小)</p> <p>□高学年は自分から動けるので、子ども会や学校から訓練参加の呼びかけがあるといい。</p>	<p>自治会</p> <p>子ども会</p> <p>小学校</p> <p>小学生</p> <p>小学校</p> <p>市</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□親への呼びかけをもう少ししっかりした方がいいのではないかと感じている。</p>	<p>□親が参加するような意識付けも大事。家庭においても関心を持ってもらうことが大切だと思う。</p> <p>□親が関心を持ち、「日ごろから備えないと災害時困ってしまう」と、親身に子どもに伝えることができれば、少し違うのではないかと。</p>		
②要援護者の支援			
<p>●要援護者に笛を配布するため訪問しても、顔を出してくれない。(徳倉第4)</p>	<p>●笛を配る際、顔見知りの組長や、民生委員なども同行するといいい。(民生委員)</p>	<p>自治会 民生委員</p>	
<p>●1次避難所に集まった人に、要援護者救助に向かってもらう。(幸原町)</p> <p>◇消防団は火災に特化していて災害弱者を救助できない。(消防団)</p> <p>◎災害時は自主防災会が災害弱者の救助・確認にあたる。</p> <p>◆高齢者に災害時の対策を聞かれた。(徳倉第1)</p> <p>◆要介護者リスト作成後、各町内で防災組織や訓練が進んでいない。非常に危機感を感じている。(民生委員)</p> <p>□要援護者にも相当ばらつきがある。申請すればみんな要援護者になる感じで、若い人もいるし年配の方もいる。災害時、誰を優先すべきか、皆にどうやって知らせればいいのか、整理がつかない状況。</p> <p>□要援護者については、組織体制に関係してくるし、個人情報の問題にもなってしまう。今の町内会組織は、どうしても「紙面上の組織」という状態だと感じる。</p> <p>□民生委員が要援護者の調査をする時、「情報が組長まで伝わるが、それでも構わない」と了承を得ている方を要援護者に行っている。</p>	<p>●災害時に要援護者をまず家から出す方法をその家族や近隣住民が考え、実際に訓練した方がよい。(民生委員)</p> <p>●徳倉のようにリヤカーを購入し利用したい。</p> <p>●日頃から要援護者を見守る見回り隊を町内会で構築したい。(徳倉第2)</p> <p>◆要援護者の救出救助の課題を持ち訓練に取り組みたい。</p> <p>◆防災訓練に地域の中高生・大学生も参加し、高齢者の救助体験をする等の取り組みが必要ではないか。</p> <p>□全町内が一度に壊滅してしまうような想定ではなく、町内の一部の地域で土砂崩れや浸水が発生したならば、要援護者を救助しに行くことは可能だと思う。その場合、誰がどこから救助に行くのか考える必要がある。</p> <p>□きちんとした組織体制を作るには、コミュニケーションをとり、「向こう三軒両隣」を作り上げていかなければいけないと思う。</p> <p>□要援護者を全員救助するには、「お年寄りがどこにどれだけいて、町内にこんな問題がある」と近隣に知らせることが必要。</p> <p>□町内で困っている方の状況を、組長レベルまで把握できる組織体制が必要。それには日ごろの付き合いが大切になってくる。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会 高校生 大学生 自治会</p> <p>自治会</p>	
③防災体制の強化			
<p>△自主防災会が形だけになっている。防災委員の任期が1～2年と短いこと、委員のなり手がいないことが原因か。</p> <p>●徳倉小付近には 8m 以下の道路が多く災害時利用できない。(市子連)</p> <p>●徳倉小付近はもともと湿地帯で液状化が起りやすい。</p> <p>●東北被災地では車中泊のためのガソリンや現金が不足した。(市子連)</p>	<p>●液状化が起きることを踏まえた防災対策が必要。</p> <p>●断水時に備え、井戸など水が出る場所をハザードマップにまとめた方がよい。</p> <p>●震災で必要となった物資を日頃から準備した方がよい。</p>		

現況	課題	担い手	結果・実績
<ul style="list-style-type: none"> ●小さな集落には水と食料が届かない。 ●日ごろまとまりがある地域は災害時とても強い。日ごろから付き合いがあると地域は団結する。 ●組長も取り組み方に温度差があり、まとめていくことは難しい。(徳倉第3) □今年度、防災組織の体制整備が非常に難しかった。技術もノウハウもない方を入れていいものかと思い、技術のないところは班を作らなかった。 □市で通知している「班の役割」「やってほしいこと」を見ると、すごく技術力がある。その技術がないのにやらなくてはいけない。市はどうやって技術力を高めようとしているのか、市の研修や教育はどうなっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●行政は小集落も配慮して配給システムをつくってほしい。 ●マンション単位、組単位の小さい組織活動が重要。 ●訓練は必ず参加するものにしたい。(幸原幸栄会) ●机上論ではなく、実際に起こっている問題の解決策を考えていくべき。 □しっかりした班を作るにはどうしたらいいのか。防災の組織体制について話し合うべきだと思う。 □市の考え方と町内会の実力にギャップがあるように思える。そのギャップを埋めていき、体制を作る必要がある。 ◎県の「ふじのくに防災士養成講座」に参加する場合、補助金が出る。また、市ではもう少し簡単な人材養成講座を実施している。ぜひ町内で参加を呼びかけてほしい。 	<p>市</p> <p>自治会</p> <p>市 自治会</p>	
2. 子どもの健全育成			
①挨拶の促進			
<ul style="list-style-type: none"> ◇子どもは顔見知りでないで挨拶しない。(徳倉4丁目子ども会) ◇◆毎日挨拶し、顔も名前も知っているので不審者と思われにくい。挨拶は防犯につながる。(スクールガード) ◇◆顔や名前を覚える、挨拶プラスおしゃべりなどで挨拶しやすくなる。 ◇◆挨拶は、きずなづくり、地域づくりの根源。挨拶しあうと皆が知り合いになり町が元気になる。(地域づくりCN、民生委員ほか) ◇気軽に挨拶できる雰囲気があるといい。 ●◆昔は隣組の会合や、地区で毎月一回交流会等があったが、現状、回覧版を渡す時の声かけもない。 □最近子どもや大人の声かけ・挨拶が多くなった。中学生の挨拶は少ないが小学生は多い。 □年4回交差点で交通整理を行なっているが、子どもからの元気な声は比較的少ない。不審者対策や家庭の問題もあると思う。 □街道歩きが趣味。先日、自転車に乗った中学生が見ず知らずの私にしっかりあいさつしてくれた。声をかけ合うようにしている地域の子だと思う。地域によって挨拶の状況はだいぶ違う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇保護者、子どもと顔見知りになることが重要。 ◇スクールガード講習会や、情報交換の場を設けてほしい。 ◇地域に挨拶の積み重ねがあり、中高生も挨拶してくれる。今後も声かけをお願いしたい。(徳倉小) ◎校区全体で、挨拶する地区になるといい。 ●◆会合を復活させるなど、顔を合わせる機会を隣組から作っていきたい。 ◆挨拶は学校の指導だけではなく家庭での教育が大切。自然に挨拶できることが目標。 □各町内で日常的にお互いに声をかけあうといい。子どもの健全育成につながると思う。 □なるべく外へ出て、清掃活動などから始めれば、それが声かけの機会になる。 	<p>校区全体</p> <p>スクールガード</p> <p>市</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒◇◆スクールガードと子ども達に信頼関係がある。</p>
②不審者対策			
<ul style="list-style-type: none"> ○防犯パトロールを年に3,4回行っている。(民生委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ○パトロールを行う時間は子どもがいる時間帯にしたいので、会議で検討していきたい。 		

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇5月中旬以降、毎日のように不審者情報がある。子どもに警戒心ができてしまう。(徳倉小)</p> <p>◆不審者に関して、下校時間にあわせ、フェアキャストで正確な情報を保護者に流している。スクールガードもすぐに確認に来る。周囲の親も気を付ける。(徳倉小、幸原子ども会)</p>	<p>◆子どもに誰にでも挨拶しなさいという指導はできないが、地域の方とのふれあいや学びは大事にしたい。(徳倉幼稚園 PTA)</p>	<p>小学校 校区全体</p>	<p>⇒◆地域で不審者情報を共有している。</p>
<p>◆スクールガードもはじめはベストと帽子で認識された。(徳倉第3)</p> <p>◇◆PTAで協議したところ、保護者からは不審者対策のため闇雲に挨拶をかえす指導はできないという声が多数だった。(徳倉小 PTA)</p> <p>◆バッジは防犯パトロール会のメンバー全員に配布し積極的に挨拶している。(民生委員)</p>	<p>◆市で予算をつけ、朝夕散歩する人にスクールガードのベストを配布し使用してもらったらどうか。</p> <p>◆外見で防犯パトロール、町内会長など、同じ色の服装などわかりやすいイメージで役柄がわかることが大切。ユニフォームや格好をまず認知してもらおう。(消防団、体育振興会)</p> <p>◆年一回、役員の役割がわかるものを顔写真付きで作成し配布してはどうか。</p> <p>◆バッジを活用したい。登録した人にバッジを配布し、バッジをつけた人には子どもから率先して挨拶をするよう、学校・保護者から指導していきたい。(徳倉小 PTA)</p>	<p>スクール ガード</p> <p>自治会</p> <p>PTA</p>	<p>⇒◆最初はベスト、帽子で認識された。</p>
③ 3世代交流			
<p>▲徳倉キッズでは子どもに2泊3日の通学合宿やアスレチックなど様々な体験をさせている。地域の皆さんの力で子どもを育てる取り組みも今年5年目になった。</p> <p>○「子どもは地域の宝事業」について、活動内容についての情報が市に来ていると思う。(徳倉第3)</p> <p>●老人会、子ども会の参加者が減ってきたのは参加が面倒と思う人が増えてきたため。(徳倉キッズクラブ)</p> <p>▲子ども会では、中高生のリーダー育成をしている。今年新たに子ども会の子供達にリーダー研修を行って、取り組みを推進している。</p> <p>◇◆幸原子ども会では夏休みに老人会との交流がある。子ども達もお年寄りも楽しめるいい機会になっている。</p> <p>◇徳倉子ども会は楽しく活動している。(徳倉小 PTA)</p> <p>◇敬老大会で子どもが高齢者にプレゼントし、とても喜んでもらっている。(地域づくりコーディネーター)</p> <p>◆園では八乙女会との交流、祖父母参観会やセンターのお年寄りとのふれあい等を実施している。(徳倉幼稚園)</p> <p>◆3世代交流は年に何回かで普段はほとんどない。(菊寿会)</p> <p>□地域で行事を多くやっているところはつながりが深い。特に徳倉3丁目などは年間を通して色々な行事を実施している。</p>	<p>○「子どもは地域の宝事業」の成功事例を紹介してほしい。</p> <p>○子どもは地域全体で育てていくべき。</p> <p>○子どもとのつながりは強いが、働き盛りの世帯との接点をどのように持つていくかが課題。(徳倉第2)</p> <p>●魅力ある企画があると住民も参加する。企画の検討をしてほしい。</p> <p>▲町内行事の際に、この地区にはこういう子がいると連絡できる。子ども会役員か三島市子ども会連合会の会長へぜひ声をかけてほしい。</p> <p>◇子ども会の活動内容を市に知らせてはどうか。</p> <p>◇子どもと高齢者が一緒にゲームを行う場があるといい。</p> <p>◆幼稚園で高齢者とのふれあいを実施していきたい。</p> <p>◆子ども達とできるだけ密度の濃い交流をしていきたい。</p> <p>□地域につながりがないと、いざという時に何もできない。何でも付き合いがあると参加しやすい。コミュニケーションは重要。</p>	<p>自治会 市 校区全体</p> <p>各団体</p> <p>子ども会 市 自治会 幼稚園</p> <p>老人会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◇夏休み老人会と子ども会の交流行事実施。</p> <p>⇒◇自治会で子どもと高齢者の交流実施。</p> <p>⇒◆幼稚園と老人会の交流実施。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◆現在、徳倉小祭りは平日に実施していて地域の人が参加できない。</p> <p>□祭りやスクールガードなどの活動を見ていると、地域のつながりができている、または作ろうという意識の高い方が多いと感じる。挨拶も定着しているのではないかと思う。</p>	<p>◆徳倉小祭りを土日に地域の交流行事として開催してはどうか。例えば、午前中は学校の祭り、午後は地域の祭りにしてお年寄りとの交流をはかるなどの工夫ができる。</p> <p>◆来年度の行事で検討したい。(徳倉小)</p> <p>□小学校を、コミュニケーションを図る一つの場としてぜひ使ってほしい。子どもは地域、社会の宝なので、学校を一つのきっかけとしてくれたらいい。</p>	<p>小学校</p>	
<p>○4 校区でソフトバレーをやっているが、もっと色々なことをやりたい。(体育振興会)</p> <p>◇運動会などの行事案内は回覧版で告知。老人会の情報がなく連絡できない。メンバーは仕事があり町内の会合出席は難しい。(体育振興会)</p> <p>◇◆運動会で子どもと高齢者の競技(大玉転がし、綱引き)実施。今年は提案があり、消防団とスポーツ少年団との競技も実施。(体育振興会)</p> <p>◆グラウンドゴルフ大会参加者は、高齢者と小学生を予定。(体育振興会)</p> <p>◆「みしま体操」は保健委員と体育振興会で以前実施していた。(体育振興会)</p>	<p>○徳倉校区の盆踊りに北上も参加してみたい。4校区で三島夏祭りに匹敵する大きなイベントを開催してみたい。</p> <p>◇◆運動会などのイベントで、子どもと高齢者の交流を図っていききたい。</p> <p>◆子どもと高齢者の交流の場を提供していききたい。</p> <p>◆色々なところに顔を出して、保健委員の活動を広めていききたい。</p>	<p>体振会</p> <p>体振会</p> <p>保健委員</p>	<p>⇒◇◆運動会で子どもと高齢者の交流や、他団体との交流競技を企画実施。</p>
④遊び場・通学路			
<p>◇子どもたちが遊ぶ広場がない。(徳倉第3、幸原町)</p> <p>◎公園整備は土地と財政の問題があり難しい。</p> <p>◇公園を整備したがゲートボール場として使われ、子どもが遊ぶと怒られてしまう。(民生委員)</p>	<p>◇外で遊べるよう公園・広場を整備してほしい。</p> <p>◇子どもと高齢者が公園を一緒に使う考え方が大事。</p>	<p>自治会市</p>	
<p>○子どもに車がつっこむ事件が発生している。(徳倉第1)</p> <p>◇徳倉の中村橋は左折車と子どもが接触するような狭さ。(徳倉第3)</p> <p>◇歩道が狭い。自転車が歩道を走り危険。通学路に枝が飛び出していたり、穴があいていたりと危険。(徳倉第1、徳倉第4、民生委員)</p>	<p>○車の対策を考えなければならない。</p> <p>◇将来的には道路の拡幅が必要。安心して通学できる道幅にしてほしい。</p> <p>◇通行帯を設けてほしい。</p> <p>◇定期的に通学路の点検をしてほしい。</p>	<p>自治会市</p>	
3. 高齢者			
①高齢者の見守り			
<p>◇独り暮らしの高齢者は1年で状況が変わる。調査は年1回なので、変化に対応しにくい。4か月に1度、情報共有できるような研修会を実施している。(民生委員)</p> <p>◇高齢者が動けない時には代わりにゴミ出しを行うなど、組で日ごろから様子を見るよう心がけている。(徳倉4丁目子ども会)</p> <p>◇◆高齢者の独り暮らしが増加。去年から要援護者の見守りを各町内会に依頼している。(民生委員)</p> <p>◆孤独死が非常に増えている。高齢者だけでなく病気の方も多い。(徳倉第3)</p>	<p>◇◆高齢者へ笛・祝い金を配布する時、最初は必ず民生委員と回ってほしい。見守りの協力体制が必要。(民生委員)</p> <p>◆日常的な見守りがこれからの課題。</p>	<p>民生委員</p> <p>自治会</p> <p>自治会 民生委員</p> <p>校区全体</p>	<p>⇒◇研修会で情報共有を図っている。</p> <p>⇒◇組単位で高齢者の見守り実施。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◆ウォーキングなどは、認知症にも効果がある。(民生委員)</p> <p>◆高齢者を敬老関係で訪問してもなかなか出て来ない。(徳倉第4)</p> <p>◆高齢者は、見守りが負担の場合もある。高齢者は民生委員に任せ、何かあれば連携して取り組む。(幸原町)</p> <p>□民生委員や地域の方々が、「心配な方がいる」と地域包括支援センターに連絡してくれる。見守り体制はできているが、まだまだマンパワーが足りない状況。高齢者同士の見守り体制は、かなり整ってきている。</p> <p>□昨年、敬老金を歩いて配布した。地図で調べて会うと、どこにどんな人がいるかよくわかった。</p> <p>□母親は高齢だが、3カ月ほど住み込みで働いている。そういった派遣先には緊急連絡網がない。</p>	<p>◆町内会で積極的にお年寄りを表に出す工夫してほしい。</p> <p>◆ほとんどの高齢者はセールスだと思って出て来ない。訪問者がわかる方法があれば一番いい。(民生委員)</p> <p>◆朝旗を出し夜しまうなど、元気だと隣近所に知らせる仕組みがあるといい。(民生委員)</p> <p>□要援護者リストを活用し、要援護者がいたら各組長から隣2軒をお願いをして、日ごろから支援してもらおうのが一番いいのではないかな。</p> <p>□個人情報なのでだめかもしれないが、そこに高齢者がいるとすぐわかるよう、高齢者の家庭にマークをするといいのではないかな。</p> <p>□今年の敬老金配布は、組長や民生委員と一緒に回れるといいと思う。</p> <p>□企業に、単身高齢者で働いている方の登録を義務付ける体制をつくってほしい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会 民生委員</p> <p>自治会 民生委員</p>	
②高齢者同士の交流			
<p>●参加が煩わしいという理由で老人会に出ない人が多い。(幸原幸栄会)</p> <p>◇子どもと接する機会を作り、輪投げ大会、グランドゴルフ大会など実施。(菊寿会)</p> <p>□幸原には75歳以上の方が200人くらいいると思う。幸原幸栄会の会員は40名。会に入っている人は、普段から健康やスポーツなどの指導をお互いに行なっている。</p> <p>□菊寿会には46名在籍。高齢という意識はない。通院している割には元気な方が非常に多い。</p> <p>□3月に第4分団フェスティバルがあり、徳倉八乙女会の方に徳倉第6町内会として出ている。</p>	<p>●◇地域の仲間が集まれば情報も集まる。老人会をもっと利用してもらいたい。老人会に入っていない人が心配。</p> <p>◇老人会がモノづくりを子どもに教えるような交流があれば、老人も元気になり、子どもも優しくなる。</p> <p>◇老人にとって、ついの住みかとなるような街をつくりたい。</p> <p>◎市内の老人クラブの数が59⇒54に減少している。その一方で高齢者は増えている(75歳以上が約13,000人、65歳以上は約28,500人)。健康寿命を延ばすことが大事。</p> <p>□高齢の方も、地域のイベントに多く参加されたいと思う。</p> <p>◎若松町のコミュニティカフェ、芙蓉台の食事会などを参考に、自分たちでコミュニケーションの場を作ってほしい。</p> <p>□「高齢者同士のコミュニケーション」を増やしていくと、高齢者同士の見守りになり、地域の方々との「見守りの協力体制」につながっていくのかもしれない。</p>	<p>老人会</p> <p>老人会 子ども会</p> <p>校区全体</p> <p>校区全体</p>	
4. 環境美化			
①環境美化			
<p>○幸原は道路が狭いのでゴミが多い(民生委員)。</p> <p>○ゴミ収集を兼ねてパトロールをしているが、ゴミを出している方と話をし情報交換できるので良い活動だと思う。(環境美化推進委員)</p>	<p>○パトロールの中でゴミ拾いをしてほしい。</p> <p>○空き家の対策を考えたほうが良い。</p>	<p>校区全体</p> <p>自治会 市</p>	